

明日への希望をつなぐ

がん治療情報



2019年 4月26日発行

Vol.1
創刊号

特集

がんのリスクを減らすには

どうしてがんになるの？
予防法は？ 再発を防ぐには？

■ 専門家に聞くがんの治療薬①

抗がん剤は元気に幸せに生きるためのもの

虎の門病院 臨床腫瘍科 部長 高野利実

■ 知っておきたいがん治療の知識①

突然のがん「告知」！何をすればいいの？

■ 治療中のよりよい暮らしのために①

心の安定や希望を生む、同じ境遇の仲間との交流

ことばの処方箋／治療情報／がん治療の悩み相談室

42/75

Chitaki Hoshino 2019

Contents

[巻頭 ことばの処方箋①]
 人生いばらの道、されど宴会 樋野興夫 …………… 2

[特集]
 がんのリスクを減らすには …………… 4

[専門家に聞くがんの治療薬①]
 抗がん剤は元気に幸せに生きるためのもの …………… 12
 虎の門病院 臨床腫瘍科 部長 高野利実
 新しく使えるようになったがんの薬 …………… 15

[clinical trial 治験情報①]
 医療の可能性を広げる「治験」を知っていますか? …………… 16

[知っておきたいがん治療の知識①]
 突然のがん「告知」! 何をすればいいの? …………… 18
 ファイナンシャル・プランナー
 CNJ認定 乳がん体験者コーディネーター 黒田尚子
 特定社会保険労務士 三浦睦子

[リレーエッセイ①]
 がんの時代、死生学を学ぶ—わたしを生き、わたしを死ぬ … 23

[がん治療の悩み相談室①]
 「がん相談支援センター」とは、どんなところですか? …… 24
 聖路加国際病院 相談支援センター 橋本久美子
 国立がん研究センター及び都道府県がん診療連携拠点病院一覧… 26

[治療中のよりよい暮らしのために①]
 心の安定や希望を生む、同じ境遇の仲間との交流 …………… 28
 認定NPO法人 がんサポートコミュニティー事務局長 大井賢一



●表紙作品

「二重螺旋」/堀越千秋

シルクスクリーン、66.5×55.5cm

Chiaki Horikoshi (1948-2016)
 東京芸術大学大学院卒。マドリードを拠点に活動し、世界各地で個展を開く。日本では、ANAの機内誌『翼の王国』の表紙絵や『週刊朝日』のエッセイなどで知られる。2014年、スペイン王国よりエンコミエンダ市民功労章を受章。18年、代表作品を集めた『堀越千秋画集』(大原哲夫編集室)刊行。

編集/笠井 篤(カサネキカク)
 執筆/上村久留美、木村ゆかり、
 中出三重、山内章子
 デザイン・イラスト/水田デザイン
 写真協力/フォトライブラリー
 印刷所/株式会社リーブルテック

発行者あいさつ

このたび、株式会社アイロムグループは、がん治療の最前線で活躍される先生方や専門家、患者支援団体の皆様らのご支援・ご協力のもと、フリーマガジン『明日への希望をつなぐがん治療情報』を発刊いたしました。誌面では、患者様の治療や療養生活に役立つ情報を幅広く掲載・発信してまいります。

当社は「明日への希望をつなぐ医療を目指して進み続ける」を企業理念として、治験や臨床研究の支援(SMO)事業、iPS細胞作製等の最新技術を用いた先端医療事業などを展開し、すべての方の健康的な暮らしに貢献することを目指しています。この情報誌が、がんと闘う患者様とご家族の一助となり、希望となるよう願っております。

2019年4月



大井賢一

認定NPO法人
がんサポートコミュニティ事務局長
第25回日本臨床死生学会年次大会長

がんの時代、 死生学を学ぶ わたしを生き、 わたしを死ぬ



第25回日本臨床死生学会年次大会は2019年9月21～23日、国立がん研究センター新研究棟(中央区築地5-1-1)にて開催予定。

国立がん研究センターが2018年に公表したがんの5年生存率は67・6%で、がんは治る時代ともいわれるが、1981年から死因のトップだ。内閣府が2017年に公表したがん対策に関する世論調査では、がんについて「こわいと思う」と「どちらかといえばこわいと思う」との回答が72・3%で、がんのイメージは根強い。

いつ・どこで・どのように死を迎えるか、どんなに思い描いても死の時期を自らで決めることはできない。その不条理さゆえ有史以来、哲学も宗教も科学も死を探索してきた。

死に向き合うための死生学はノーベル生理学・医学賞を受賞した生物学者メチニコフが1903年に提唱したことに始まる。

人間が真核細胞生物である以上、寿命があり、死が避けられないのに、年長いても死を受け入れない、年老いるほど死を恐怖する、この人間のちぐはぐさを問いかけた。

生活の質(quality of life: QOL)をテーマに、ギリシャ語で老人を意味するジェロンから作ったGerontology(老年学)と、死の質(quality of dying and/or death: QOD)をテーマに、ギリシャ語で死を意味するタナトスからThanatology(死生学)を創出した。日本でも1904年に仏教学者の加藤咄堂が死生観との言葉を使って日本人の死への向き合い方を記している。

ベテラン女優の樹木希林さんが2018

年9月15日に亡くなられたことは記憶に新しい。彼女は2004年に乳がんを診断され、13年に乳がんが全身転移したことを公表、「わたしはわたしの前にあることを受け入れ、流れに任せることを選びます」とコメントした。彼女の死後、彼女の夫である内田裕也さんは彼女を「見事な女性でした」と評した。彼女は自らを生きて、自らとして死んだのだ。

哲学者ジャンケレヴィッチは死を人称によって捉えた。わたしたちにとって樹木希林さんの死は三人称の死で、社会現象や数値に表れるいわば記号化された死だ。内田裕也さんにとって妻である彼女の死は二人称の死であり、そこには「あなた」を失う悲哀に「わたし」はどう立ち向かうかの切実感がある。樹木希林さんにとって自らの死は一人称の死である。それは死の客観的な反映ではなく、「わたし」の実経験であるのに可能性としてしか理解できない。

わたしの死はわたしのものであり、避けられない。わたしの死を克服する最善の方法は予期していることだ。哲学者ハイデガーはそれを死の先駆的決意性と表現し、人は自らが死ぬことを認め、受け入れ、自らの人生を生きるべきだと説いた。わたしたちは死生学を学ぶことで、死をむやみに恐れなくなるかもしれない。

※リレーエッセイは、第25回日本臨床死生学会年次大会とのコラボ企画です。